

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100246		
法人名	有限会社あおき		
事業所名	グループホーム福寿園		
所在地	宮崎市山崎町佐牟田1409-2		
自己評価作成日	平成28年1月8日	評価結果市町村受理日	平成28年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.in/45/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kanistrue&amp;jisyosyoCd=4590100246-00&amp;PrefCd=45&amp;Version=0d+022">http://www.kaijokensaku.in/45/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kanistrue&amp;jisyosyoCd=4590100246-00&amp;PrefCd=45&amp;Version=0d+022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成27年2月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当園は時間などに縛られず、個人のペースに合わせ、日常生活と変わりなくしている。食事に本人が好きな物を個別で提供したり、散歩の好きな方は職員同行で散歩に行ったり、カラオケの好きな方は歌って頂くなど、本人が望むように生活できるケアに力を入れている。また、職員が明るく元気で、一緒に話したり笑ったりすることで利用者様も元気になり、ご家族様も安心し、生き生きと生活されている。緊急時にも24時間対応の主治医、訪問看護、薬剤師との医療連携も充実し、看取り介護に取り組んでいる。利用者様の健康を守り、安全で安心して暮らしを提供する。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは住宅と田畑に隣接し、閑静な環境にある。ホームの社長、施設長を中心に、家庭的な雰囲気のあるホームである。運営においては、地域とのつながりを重視し、地域の行事にも積極的に参加し、意見交換も活発に行っている。近隣の保育園からの来訪などもある。日々のケアにおいては、利用者ごとに担当者を置き、手厚いケアに取り組めるよう体系化している。また、管理者及び職員間の関係も良く、職員の働きやすい職場づくりに配慮している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その利用者の個性、幸せ、あたたかい環境を良くすることから始まり、その方と心の通うレベルまで付き合うことによって成り立つ為、職員は、最終的にこれを目指し、実践につなげている。	わかりやすい理念を掲げ、具体化し、日々のケアに生かすよう取り組んでいる。職員会議で理念について話しあい、ホーム内に掲示するとともに、出勤時には職員各自が理念を確認し、意識を高める努力をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の祭りなどに利用者を参加させたり、施設行事などは地区の保育園園児を招いて一緒に時間を過ごしたり、散歩時は挨拶をするなど、意識して努めている。	自治会に加入し、地域の行事に積極的に参加している。また、地区の保育園の園児をホームの行事などに招待し、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の自治会長、公民館館長に参加いただいている運営推進会議にて、「どう認知症を理解すればよいか」などを話し合い、説明、相談などを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、毎月の研修報告、施設行事予定、活動報告、地域の行事予定、非常時の避難箇所など、自治会長、公民館館長、地域包括支援センターなど参加いただき、話し合いが行われている。	自治会長を含め、会議参加者からホームの運営や要望などについて積極的に意見が出され、双方向的な会議となるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所、保健所などの連絡書類は職員全員が目を通し、情報交換を行っている。解らないことは市役所、保健所に連絡を行い、行政との関係を綿密にし、サービスの質の向上に取り組んでいる。	ホームの実情や制度、運用上の不明な点などについて、行政と情報交換できるよう関係づくりに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員などが研修に参加し、研修報告書を作成し、毎月の定例会でその研修内容を報告して、「身体拘束とは、どこまでが拘束になるのか」などを話し合い、職員がいつも意識して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠は行っておらず、徘徊傾向のある利用者の意図を把握し、散歩に行くなどの対応をしている。また、職員は研修会を通じて身体拘束の意義を理解し、言葉や身体拘束のないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員が研修などで学び、施設内にも高齢者虐待事例や具体例など廊下などに貼り、常に虐待が見過ごされないよう意識させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員の具体的な理解は出来てない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約者、ご家族が解りやすく理解し易いように、契約書や重要事項を丁寧に読み上げ、説明し、質問や疑問等がある場合は詳しく説明し、理解、納得を得られるように図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来園時に相談などを聞いている。ホーム玄関に苦情箱を置いているが、入っていることがない。行政に第3者相談口がある事も園内に提示している。	意見箱を設置しており、また、家族の来訪時に意見や要望などを気軽に言ってもらえるような雰囲気づくりに努めているが、まだ十分ではない。	家族の運営推進会議への参加を推進し、また、家族の集まる機会の多いイベント等を開催するなど、意見の出せる場を増やすよう取り組むことを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の定例会において職員の意見を求めるとともに、管理者は常に職員の意見を聞くように心がけている。	月1回の職員会議で、運営や利用者の状況などについて、職員から意見や提案が出され、運営に反映させている。管理者は職員とコミュニケーションを図り、相談事など自由に語り合える職場環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の勤務状況、個性、努力を把握し、それを上部に報告し、職員の希望休みなどを取り入れ、やりがいのある職場環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	どの職員にも平等に研修に参加してもらう為に勤務調整も行い、研修に参加した職員は報告書を作成してもらい、職員全員に観覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修後、他施設職員との交流を行い、情報交換をして、お互いの良いところを共有し、よりよいサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者、家族と話し合い、利用者の要望や希望を見つけ出し、来園の機会を作り、他利用者との関係作り、安心して生活して頂くサービスができるよう工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	基本情報を作成する際には、家族情報や状況、利用者の既往歴、生活歴、好きなことや趣味を把握し、家族がかかえている問題などを共有し、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護保険、医療保険に留まらず、障害福祉サービスの地域生活支援事業等、他の制度のサービス利用も含めた対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	月に1度全体外出を行ったり、職員と一緒に買い物や食事に行ったりして交流を深め、支えあえる関係が築かれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	園内行事の際にはご家族に連絡し、参加してもらい、食事も利用者と一緒に食べて共有した時間を過ごしたりして共に利用者を協力し合って支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方、近所の方が気楽に来園出来るよう、職員の接遇の教育に努めている。利用者の馴染みの山村の故郷に行き話をしたり、食事をしたり、交流に努めている。	家族の支援の下、通院や墓参り、買い物、外食など、個々の状況にあわせ、また、一人ひとりの希望を尊重し、なじみの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関係を職員が理解しており、利用者がお互い声かけしながら洗濯物をたたんだり、掃除の手伝いをしたり、仲間意識と係り合いを増やすことに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が退所されサービス利用が終了した場合でも、必要に応じて本人や家族に支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個別に担当者を決めてその職員が中心になり、他の職員と情報を共有し、個別ケアが行えるように努めている。	日々の利用者の表情や言動から、意向の把握に努めている。また、利用者個別に担当者を置き、担当者が中心となって本人や家族から情報を聞き取り、思いや意向に沿えるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人の会話の中から生活歴を見出し、その方らしさを見つけ、生活の把握に努めている。また、その内容を記録し、全職員が把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアマネを中心にサービス担当者会議を開催し、担当の職員がモニタリングを行い、職員が利用者の1日の過ごし方や残存能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前の情報の中から、家族、本人の希望を聞き入れ、その人らしさを見つけ、より安心した暮らしの為にモニタリングを行い、サービス担当者会議を設け、ケアの共有に努めている。	職員会議で利用者の状態を確認し、職員から日々の状況を聞き取り、介護計画を作成している。また、職員の気づきや利用者の状況を具体的に記録できるよう工夫がなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が介護の中で気づいたことを良いケアにつなげていく為に職員間で検討しながら介護計画に盛り込んでいき、日々見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者が穏やかに安心して暮らせるように、個別外出や業務の流れに捉われないケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センター、病院、警察、消防と連携し、利用者が安心・安全に暮らせるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診と24時間の医療機関との対応をしている。また、必要に応じて訪問看護による処置を行っている。かかりつけの医療機関があれば、園の主治医と連絡を取り、移行している。	かかりつけ医は本人・家族が希望する医療機関となっている。月2回の往診など、協力医療機関との連携も充実しており、急変時でもすぐに対応できる関係を構築している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の往診と週1回の訪問看護の診察があり、24時間連絡が取れる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医を中心に専門医へ連絡を取ってもらい、入院が必要な時は家族へ連絡し、対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化やターミナルの場合、主治医と家族、施設、訪問看護、薬剤師で話し合い、方向性を共有し、利用者の看護・介護にあっている。	ホームは看取りに関する書類を整備し、指針を明確にしており、看取りの経験もある。入居時に看取りの説明を行い、終末期の対応についてはその時々状況に沿って本人や家族と話し合い、対応できるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は火災の場合など定期的な総合訓練を行い、急変に対しては医療機関との連携に取り組んでいる。AEDの設置と緊急事態の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で地区の方と話し合い、安全な避難通路、場所などを把握しており、避難訓練にて避難時の想定を行っている。	定期的な防災訓練を行い、対応できるよう避難方法を身に付けている。緊急時に消防と連絡が取れる体制を整えているが、地域との協力体制がまだ十分ではない。	運営推進会議を利用して近隣地域の住民を含めた防災訓練の実施を提案し、協力体制をさらに強化することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設の理念のように一人ひとりの個性(尊重)を大切に、幸せに安全に(プライバシー)できるように言葉かけや配慮を行い、対応している。	職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、援助が必要な時も本人の気持ちやプライドに配慮し、さりげないケアを心がけ、優しい言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の表情、反応を観察しながら、利用者が自己決定して生活が送れるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは個別で決まっているが、本人のペースを大事にし、健康状態を配慮しながら、外出や散歩に行きたい時は行くなど、本人の希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を尊重しながら、本人の好みの髪型や服装、髪染め等、みだしなみやおしゃれが出来るように支援する。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを把握したうえで、その利用者が好きなものを提供している。個別メニューも行っている。	職員も同じ食卓を囲み、同じ食事をとっている。また、利用者の嗜好や季節の物をメニューに取り入れたり、外食に出掛けるなど、柔軟に対応している。利用者には能力に応じて、後片付けを行ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取などを記録に残し、1日を通して確保できるように支援している。また、体調に考慮して、おかゆやパンを提供し、個別にあった食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が誘導し、口腔ケアを行っている。自己にて出来る利用者は歯磨き終了後、職員が磨き残しがないか確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者のリハパンやオムツの使用を減らす為に記録を利用し、排泄パターンや習慣を把握し、声かけをするなどして、自立にむけた支援に取り組んでいる。	オムツの使用を減らすため、排せつチェック表を活用したり、排せつサインを見逃さないようにして、昼間はトイレで排せつできるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	健康管理、情報など、医師や訪問看護、介護職員が共有し、できるだけ自然排便を行えるように努力している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2つの班に分けてあり、入浴は1日おきに行っている。気分や体調などで入浴日変更等も柔軟に対応している。	週3回の入浴を実施し、入浴希望日の聞き取りとともに希望時間にあわせ入浴できるように配慮している。入浴を拒む場合は、時間をずらして声をかけるなど、対応を工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	バイタル、食事量、活動量等、その時々状況に応じて休憩したり、睡眠をとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を全職員が頭に入れており、飲み忘れがないように薬を手渡しした際、飲み終えるのを確認している。服薬後、利用者に症状変化がでた場合は、主治医に連絡を行い、状況を報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全体外出をはじめ、色々な行事やカラオケ等、本人が出来る事を把握し、利用者一人ひとりに合わせた支援を行い、気分転換が図れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出かけたり、保育園園児と交流したりと、個人にあった支援方法で対応している。本人希望により外食や買い物に出かけるなど支援している。	月1回は外出できるイベントを企画している。また、地域の行事に参加したり、買い物したり、外出ができるよう家族への働きかけもを行い、日常的な外出を積極的に支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談の上で自己判断で使える金銭を所持している。無くすなどの利用者はご家族の了解をえて施設で保管し、その都度買い物等で使用される。いくら使ったかなど、ご家族に連絡を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望には電話をかけてご家族と話をして頂く。手紙は本人に渡し、読めない利用者は職員が代読している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度は常に適温を心がけ、加湿器にて湿度管理も行っている。トイレなどに花や壁画などを飾り、共同空間などには外出時の写真やくつろげるよう長ソファなどを設置している。	採光も良く、温度や湿度の管理がなされ、利用者が居心地良く過ごせるよう配慮している。また、生活感や季節感を味わえるように、行事や外出時の写真を掲示したり、飾り付けを工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間に様々な工夫をこらし、リビングや中庭デッキ、掘ごたつのある畳スペースを設置して、利用者が思い思いに過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族にお願いし、使用していた家具や日用品などを持ってきて貰い、本人が日常生活同様、居心地よく過ごせるように努めている。	利用者の使い慣れた整理だんすや家族の写真、テレビなどを持ちこんでもらい、利用者が居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活、身体機能を考慮し、手すりの位置やイスの位置を記するなど、不安や混乱を避け、安全に自立した生活が送れるよう工夫している。		